



名村 肇 議員

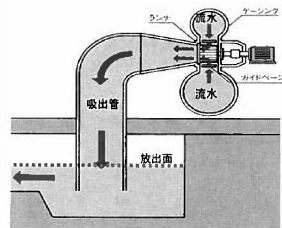
町長

再生可能エネルギーの効率的な利用は

- 小水力等の取り組みは継続していく
- 公用車としての利用は時期尚早と考えている

議員 小水力発電の調査・設置についての現状と今後の取り組みは、

町長 平成22年度発電候補地の基礎調査で4ヶ所9地点の調査が行われ、発電に必要な水量が確保できるか等ほか3つの条件があり、有望な2箇所の報告を受けたが、補助金が見直しとなったことから、予算計上を見送ったところである。



小水力発電（フランシス水車の仕組み）

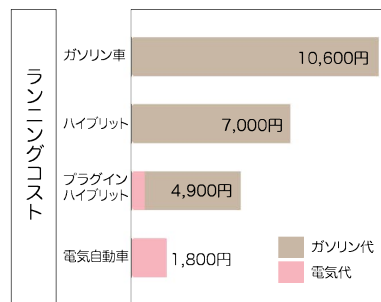
ある。二酸化炭素や大気汚染物質等の有害ガスを排出せず、石油以外のエネルギー源の多様化につながり、化石燃料枯渇が図れるメリットがある。

議員 注目の電気自動車購入に助成の考えは、公用車を電気自動車に変える考えは、

町長 現在町内利用者は推定2件であり、普及はこれからのようである。

1000km走行時の燃料(電気)代 (毎日通勤で50km使用した場合)

※実用的な値での比較のため、JC08モードカタログ燃費(電費)×0.7で算出。
ガソリン150円/ℓとした場合 平均燃費14km/ℓの車



ガソリン・電気代

価格も高い事等である。公用車の電気自動車購入は考えていない。

議員 町内会役員の負担軽減のため、町民向け回覧文書等の改善は、

町長 現在月2回役場からの配付物や回覧文書の配付をお願いしている。高齢者を隣組長や冬期間の除雪当番を免除している町内もあるようだ。

高床式家屋の場合は、階段の下に回覧受けの箱を設置してもらえば負担も軽減されるものと思う。

人口減少の中、配付の際の情報交換や声かけで安否確認にもなっていると思われる。

災害ハザードマップの見直しを急げ 防災対策に女性の視点を

町長

- ハザードマップの見直しを検討している
- 女性の意見・考えを反映するようにしたい



佐藤 勝徳 議員

議員 現在のハザードマップでは災害から住民を守るには十分とは言えない、見直す考えはないか。

町長 現在配布されているハザードマップは作成から14年が経過しており、避難場所の施設も変わっていることから改定を検討している。土砂災害ハザードマップは、県が土砂災害防止法による災害指定地域の見直しの調査を行っており、調査完了後ハザードマップ案の作成をすることになる。

議員 町の防災対策の検討にあたって女性の視点は十分に反映されているか。

町長 見直し中の防災計画は、その推進については町防災会議が行うことになっているが、その委員には女性、または女性組織の代表者は入っていない。個別計画や行動マニュアル作成の場合は、現実的な対応を検討することになるので、女性の視点でなければ気づかない事項など、意見や考えを聞いて反映するよう検討したい。



期待される女性消防団員

他の質問

- 不登校の現状と予防対策について